

ごあいさつ



札幌市農業協同組合
代表理事組合長

藤田 範彦

日ごろ、皆さまには格別のご愛顧をいただき厚くお礼申し上げます。

JA さっぽろは積極的な情報開示を通じて経営の透明性を高め、当 JA に対するご理解を一層深めていただくために、平成 25 年度の事業内容に関するディスクロージャー誌『2014 年 JA さっぽろディスクロージャー』を発行致しました。皆さまが取引金融機関を選択する際の判断材料として、また、当 JA の地域貢献活動への取り組み、業績の推移などをご理解していただくための一助として、ご一読いただければ幸いです。

● JA を取り巻く情勢 ●

平成 26 年 4 月からの消費増税を控え、高額品などの消費支出の増加、経済対策による公共事業の増加、海外経済の回復に伴う輸出の増加など日本経済が全体的に持ち直す動きがみられました。

北海道経済においては、公共投資が大きく増加しているほか、国内外からの観光客が前年を上回って推移するなど持ち直し傾向がみられました。

JA を取り巻く情勢では、政府の規制改革会議などで「農協のあり方」について議論が進められている一方、JA グループでは“総合事業の強みを活かす”「営農・経済革新プラン」を策定し、同プランの実践を加速化させることとしております。

また、「環太平洋連携協定 (TPP)」は農業だけの問題ではなく、国民一人ひとりの暮らしや地域社会の将来に極めて大きな禍根を残す問題であり、国民的議論のないまま交渉を進めることは、決して国益にかなうものではないことを、JA グループは引き続き広く道民・国民に訴えてまいります。

● JA の事業実績 ●

春先の融雪の遅れ、夏場の高温少雨、秋口の日照不足などにより、平成 25 年度の営農事業は天候に左右され、出荷量は大幅な減少となり厳しい一年となりました。そうした中、貯金・共済・相談事業などで計画を達成し、2 億 4,811 万円の事業利益を確保することができました。

● みなさまへのメッセージ ●

今後私どもは、26 年度が 2 年目となる中期 3 ヶ年経営計画を実践し、組合員のみなさまの暮らしを守り、地域社会への貢献と共生によって「信頼される JA」を実現するために「協同の理念」を心に刻み、役職員一丸となり農協運営に総力を傾注してまいります。

本年度も、組合員みなさまには、なお一層のご支援・ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

平成 26 年 7 月